

#3 資料②

プランニング

個別支援計画作成過程の「③プランニング（支援目標設定・支援計画策定の過程）」を黙読してください。（1分）

アプローチ法

アセスメントを経て PDCA 化する際にどのようなアプローチ法を用いるかを明確にする事で、ご本人も周囲も何をするのかがわかりやすくなります。ご本人やご家族にアプローチ法を説明する必要はないです。学術研究された理論でプランニングする事でパターンリズムを回避できます。

アプローチ法はこの 100 年程でどんどん出てきています。調べれば調べるほど出てきます。相談援助技術論という分野です。ご興味あればネットで調べてみてください。

たくさんのアプローチ法がありますが、主に実際に採用するのは下の3つです。

アプローチ名	アプローチの理論説明	使う時や事例
危機介入アプローチ	危機に遭遇した人への支援を行う。早期に介入が重要。 ストレスコーピング理論に基づく。ストレスコーピング理論とはストレスにたいしてどのように対処（コーピング）していくか。クライアントの今までのコーピングを探り、新たなコーピングを見付ける。	唯一支援者主導のアプローチ。 支援期間は 4 週間目安。それ以降は他のアプローチ法を採用して、ご本人主体の計画に変更する。 このアプローチは生命に関わる時のみ使用。 例) 虐待、自死・他殺願望、衣食住が確保できない（生活保護対象事案）
問題解決アプローチ	クライアント自身が主体となって問題を解決する。 クライアントと支援者の役割関係を明確にする。 クライアントが色々な支援を活用する。	クライアントが、問題とその過程を理解するように支援する（アカウンタビリティー）。そして支援（人・場所・専門家・制度）を活用する力を高める（エンパワメント）。 例) 一人暮らししたい
課題中心アプローチ	計画的な短期性を重視。3～4か月か6～12か月の支援計画。 クライアントが解決可能な問題のみを扱う。	達成感を得て自己肯定感を高める時に採用するアプローチ。スモールステップ。SST（ソーシャルスキルトレーニング）。 例) 自力通所や自力通学支援、走り出さない、各種作業工程習得、各種表現方法の習得（助けて等）

まず、危機介入アプローチが必要か否かを判断します。そうでなければ、問題解決アプローチか課題中心アプローチのどちらか、もしくは両方をミックスさせて使います。

個別支援計画作成過程のインテークとアセスメントとプランニングの欄を黙読して下さい。

さて、児童福祉の個別支援計画で、5 領域を含めた物が望ましいという指針が通達されました。

5 領域

- ・「健康・生活」
- ・「運動・感覚」
- ・「認知・行動」
- ・「言語・コミュニケーション」
- ・「人間関係・社会性」

全領域を個別支援計画に含むという事は、計画（＝達成目標）が多くなりすぎます。

すべての個別支援計画に言える事ですが、計画はただ立てればいいわけではないです。ご本人が達成感や自己肯定感を得る為の手がかりです。立てた計画がモニタリング時に「何もできてないね。次の 6 か月も頑張るって。」を何年も繰り返してはならないのです。P は変わらずとも、D を変えてブラッシュアップして再計画にしてい

事は多々ありますが、計画は2～3個で充分です。計画は生ものでありスライムです。置いておいても腐るだけであり変容自在の物です。

しかし行政からは上記の 5 領域を含めた個別支援計画にしろという指示です。ではどのように対処すればいいのかというと、アセスメントを必ずしておくという事です。

もし行政指導で 5 領域全ての計画を立ててないじゃないかと言われたら、堂々と上記の理論を説明して下さい。それでもなんやかんや言ってくるようならば、坂本が相手をしますので、いつでも連絡を下さい。ご本人やご家族へのアカウンタビリティが出来ないような個別支援計画（ケースワーク）は本末転倒です。

では、グループワークでお題『坂本』の個別支援計画を立てましょう。

その前に施設内ケースカンファのやり方を説明します。

～ケーススタディー。お一人30分のやり方～

利用時：新規ご利用者情報共有・簡易アセス・簡易モニタ～

- ① 担当支援員が10分で100文字要約とエコマップ等でインテーク情報や支援経過など報告。
- ② 全支援員で5分質疑応答（必要ヒアリングの洗い出し。担当が聞かれて分からない事がヒアリング対象になる事がある。）
- ③ 全支援員で10分で支援展開検討（アイデアだし。鉄則はストレングス評価で発言する事。担当は発言禁止。グループワークの鉄則を適応（各自の発言にお互いが批判・審判しない。）
- ④ 担当5分でPDCA発表。（②・③で得た意見等を考慮して。）

グループワーク：個別支援計画作成（約40分）

- ① 加筆完成させた松ヶ丘アセスメントシートとエコマップを利用して、個別支援計画を立ててください。（20分）
- ② 各グループの計画を発表。（各グループ3～5分）

個別支援会議のタイムスケジュールは初回 1.5 時間、2 回目以降 1 時間です。

～会議運営の例～

アイスブレイクとしてお茶やお菓子を出しながらの世間話（近隣施設の商品など関連があり話題にもなる品）

- ① 「チーム〇〇さんの個別支援計画会議です。」と会議の目的を宣言。

- ② 参加者紹介を兼ねてそれぞれからの挨拶。

☆上記までで10分 開会宣言「始めます！」をバーバルでもノンバーバルでもご本人にしていると良い☆

- ③ 個別支援計画の説明と同意

アセスメント結果の説明（エコマップや個別支援計画書類など必要ならば写真や実物などを利用して）

個別支援計画（案）の説明とご本人・ご家族のお話から訂正・加筆等を行う

ご本人へのアカウンタビリティ

ご家族へのアカウンタビリティ

☆☆☆☆☆③だけで30～40分 （初回はここが長くなる）☆☆☆☆☆

- ④ 参加者全員の一言（感想）

- ⑤ 次回のモニタリングの開催日時調整・決定

通知方法の確認

- ⑥ 閉会の宣言

☆④～⑥で10分 閉会宣言「終わります！」をバーバルでもノンバーバルでもご本人にしていると良い☆